

原発ゼロをめざす小泉純一郎講演会

2018.10.12 於 埼玉会館

講師 小泉純一郎 元総理



経団連会長が今年の年頭に「国民が反対するものは作れない」との認識を示し、海外に原発を輸出する政府政策の行き詰まりが露呈した。世界の潮流は既に自然エネルギーの利活用にシフトしており、早期の政策転換が迫られているが、安倍政権は尚も原発をベースロード電源と位置づけ続けている。

本稿は、昨年10月に埼玉県内で保険医協会も加入する実行委員会が主催した「原発ゼロをめざす小泉純一郎講演会」の要旨である。原子力発電はダメとする論旨は明快で、かつては推進していた立場も反省しながら「原発ゼロ」を訴えている。

協会では、脱原発・自然エネルギー普及の世論を拡げるために講演会実行委員会に参加し取り組んだ。小泉純一郎氏が総理時代等に行った政策、施策を支持するものではない。(文責 編集部)

ごみを詰めて、2キロ四方のこの広場に全部埋め込むんですよ。

千年万年ですよ。放射能が消えるまでです。絶対に外と触れちゃいけないの。

日本に廃棄物の処分場は建設できない

フィンランドは4基原発を持っている。この2,000メートル四方の広場には、原発2基分の核のごみしか容量がない。あと2基分、当てがない。

フィンランド4基、日本54基ですよ。しかも、フィンランドは岩盤でできている国なんだけど、日本は地震がある、火山がある、津波がある。そんな地盤ないですね。しかも、54基のうち約40基動いていたわけでしょう。そういう中で、400メートル地下に掘って、そんなごみを処分できるか。

いまだに経産省、自治体、どこかお受けしてくれるところないかなって探していますけどね。どこの自治体も手を挙げない。交付金与える、補助金与えるから手を挙げてください。どこの自治体も手を挙げない。そこで、しょうがないっていうんで、経産省、それでは自分たちで決めよう。候補地を選定すると。名前が挙がった候補、全部反対ですよ。お受けするところなんて出ない。それはそうでしょう。幾ら補助金くれる、交付金くれるって言ったってね。村長にしても町長にしても市長にしても、選挙があるからね。お受け、誘致しますよなんて言ったら、まず落選でしょうね。だから、みんな、受け手がない。

にもかかわらず、これからまた20%、22%、原発でやっていこうという考えを変えない。何を考えているのかわからないね、経産省も。頭がいいっていうのは何だろうか。学業成績優秀っていうのはわかるけどね、頭がよくても判断力はよくないね。(笑い)

そういう「オンカロ」を見て、これは日本じゃ無理だななど。

日本は産業廃棄物の会社、たくさんありますけれどね。ビルの解体とか使えなくなった家電、壊れた電気製品とかを処分する会社、産廃業者というのは、各会社それぞれが自分でその産業廃棄物を処分する場所、処分場を確保しない限り都道府県知事は許可をおろさないんです。それに比べて原発のごみは産廃どころじゃないですよ。10万年保管しなきゃいけないんですよ。危険度が減らないんだから、放射能の。こういうことを考えるとね、もう原発は無理だななど。

コストが安いウソ 建設費も廃炉費も除外

で、高度成長。油が高騰して、自前のエネルギーを持たなきゃいかんということで原発を推進してきて、あの事故がなかったら、54基あった原発、さらに50基ふやそうとしたんだから、経産省は、エネルギー計画。原発ルネッサンス計画ってあって、原発を倍にふやそうとしたの。今はもうそんな考えないけどね。それでも、30%分、20%分は原発で維持しようとしている計画で、最近また、幾つか再稼働認めたでしょう。何とか原発を維持したいとやっているんだ。

これは、「もんじゅ」という、福井県で夢の原子炉をつくったと。名前はいいいんですよ。「三人寄れば文殊の知恵」っていう言葉があるから。(笑い) ところがね。1985年、夢の原子炉もんじゅだと。原発で核のごみが出る。そのごみを「もんじゅ」という夢の原子炉で化学処理して、また原発の原料に使う、核燃料サイクル。永遠のエネルギーが、日本も自前のエネルギーを持ると。

1985年に着工して10年後完成して、事故で、20年かかったけど「だめだ」っていうのがつい最近わかった。で、原子力規制委員会、だめですと。どんな優秀

騙されていた総理時代

ご紹介いただきました小泉純一郎でございます。本日はお招きいただきましてありがとうございます。いっぱいですね。お疲れさまです。ありがとうございます。

私は総理大臣のときは、原発、必要だって言っていたんですよ。人間ていうのは考え変わりますね。総理やめて、2011年3月11日、あの東北地方の津波、そして福島原発メルトダウン。この事故の後、連日、テレビ、新聞等であの悲惨な状況を見ました。

今まで、日本の原発は絶対安全、コストはほかの電源に比べて一番安い、CO₂を出さないクリーンエネルギー、この3つがいわゆる原発推進論者の三大大義名分でしたよね。それをあの事故前は真に受けていたんですよ。しかし、あの悲惨な状況、あの事故を見てたらおかしいなと。あの言っていること違っているんじゃないかといって、ちょっと本を読んでみようよと、原発関係の勉強を始めたの。読めば読むほど、「安全」「コスト安い」「クリーンエネルギー」という経産省を中心に資源エネルギー庁、推進論者の立場が、これが全部うそだとわかったんですよ。

いまだに、経産省、うそを正さないね。最近、2030年のエネルギー構成、経産省が出したけどね。自然エネルギーを拡大していこうと言っているんだけど、それと同じに、2030年も原発は電源の20%から22%を維持するって明記しているんだよ。事故前は日本の原発、54基あったの。それで、稼働していたのは約40基。それで、原発、電源として30%の電気を国民に供給していると。2030年に20%から22%の電源を引き続き維持するということは、これから12年後に向かって原発を約30基つくらなきゃいけないんだよ。稼働させなきゃいけないんだよ。そんなばかなことありますか。おかしいね。あの頭のいい人、優秀な人がそろっている経産省、原発安全、コスト安い、クリーンエネルギーだ。これ、全部うそだよ。

自ら反省して過ちを正そうと 原発ゼロの講演を

しかし、私も、なぜあんなうそにだまされたか。あの事故が起こる前から、いろいろな本、読んでいたらよかったなと。後の祭りなんだけど。辞めてから読んでみて、勉強してみて、ああ、うそを信じちゃったのかなと。だまされた自分が悪いんだけど、悔しかったね。このうそをどうして見抜けなかったか。しかし、「過ちを改めざる、これを過ちという」「過ちを改むるにはばかることなかれ」という論語を思い出してね。いや、これは反省しながらこの過ちを正していこうと、気持ちを切りかえて、あれ以来、事故以来、私は原発ゼロをしなきゃいかんというふうに講演を始めたんですよ。

「人災」「絶対安全はない」と 事故調査委員会

あの事故の後ね。政府が事故調査委員会をつくった。その事故調査委員会の本を読んだら、委員長を務めた畑村さんが感想を述べているんだね。何て言っていたか。「事故というものは起こり得るものは起こる、起こり得ないと思っても起こる」と言っているんだよ。(笑い) 絶対安全なことはないっていうんだよな。

その後、国会で事故調査委員会、与野党全会一致で事故調査委員会を立ち上げた。その委員長を務めたのが日本学術会議会長をやっていた黒川清先生。この黒川先生と先日お会いしたので「あの事故の原因、地震が原因だとか、津波が原因だと言っていますけど、どっちなんですか」と聞いたの。そうしたら、「地震、津波、自然災害なんですか、あの福島の原発事故は自然災害ではありません」と。「人災です」とはっきり言ったのよ。

何で人災か。それは、あの事故前から東電の福島原発、まだ安全対策不十分じゃなかったという議論があった。ところが、もう東電にしてみれば、安全対策、十分しましたから。これ以上大きな地震は来ません。これ以上高い津波は来ません。もう安全、大丈夫です。指摘があったんだけど、これ、やっていなかったと。だから、あの東電の幹部たちの認識が誤っていたと。これは人災ですって、はっきり言っているんだよ。

そして、国会での報告にこういうことが書いてあったね。あの福島原発の事故の根源的原因是……。根本的じゃないんですよ。根源、源ね。「根源的原因是は、原発を監督、規制する立場の経産省、資源エネルギー庁が、監督される原発会社のとりこになった」と書いてある。立場が逆転しちゃったわけ。監督、規制する立場の経産省が原発会社のとりこになったって。立場が逆転した。

考えてみれば、経産省の幹部っていうのは原発会社に天下りしているからね。しかも先輩でしょう。強く言えないんだろうね。先輩にものを言ったって、先輩が、お前、だめだって言えば、そういうなっちゃうのかな。情けないけども。

たまり続ける汚染水 廃棄物 千年万年貯蔵

そういう状況でいろいろ調べてみると、いまだに収束してないですね。汚染水は貯まっちゃって。もう何百本もタンクに貯まっちゃってね。これ、まだ、危険な物質が除去できないんじゃないかと。あそこの付近の漁業関係者、住民が反対して、まだ、どうやって保管して、どうやって処理するかっていうのは決まっていない。収束してないんですよ。しかも、もう7年、7年たっているんだから。

唯一の処分場 フィンランドで 千年万年の対策

原発の処分場ですけどね。ウラン燃料を燃やして供給した核の廃棄物、あの処分場、世界にないの。日本もないの。いまだに中間貯蔵施設という、頑丈な、中間的に外に漏れないように保存している。しかし、原発の核の廃棄物、千年万年かかっても危険度減らないんだから。100年200年はそういう頑丈な中間貯蔵施設に保管しても、いずれは最終処分しなきゃいかん。

世界でたった1つ、フィンランドにその核のごみを処分する「オンカロ」というところがあると。そこ、視察に行ってきましたよ。

ヘルシンキ空港からジェット機で乗りかえて1時間ぐらい。「オンカロ」の近くの沿岸の飛行場において。船で10分か15分ぐらいで、岩盤でできた島に到着です。そこに核の処分場「オンカロ」を建設中。ほぼ完成に近い。約400メートルの地下でね、2キロ四方の広場。ここに円筒形の頑丈な筒を持ってきて、核の

な原子力技術者に考えてもらったけど、文殊の知恵は出てこない。廃炉勧告をついにした。

それまで、もんじゅをつくるために1兆1,000億円。原発はコスト一番安いって言ったけど、この1兆1,000億円は全部税金。コストに入っていない。コストってというのは、原子炉でウラン原料を燃やして電気を供給、そのところだけ。それで、コスト安い、コスト安いって言っていたんだから。

それで、もう、これは幾らやってもできないんで、今、どうやって廃炉にするか。廃炉勧告したっていったって、どうやって廃炉にするか、これから研究するっていうんだ。一時的に管理するけど、ただ管理だけで毎日5,000万円かかってくる。これも税金。原発はもうどれぐらい金がかかるかわからない。それをまだあきらめないでまたやろうとしているんだから、ほんと、おかしいなと思っているんですけどね。

テロで狙われたらどうする

政府は、日本の原発は世界一厳しい安全基準ですと言った。これまたうそ。素人だっすぐわかる。アメリカはもう、日本の原発以後、安全対策厳しいですよ。テロ対策も、ニューヨークでああいう飛行機を乗っ取られて、あそこのニューヨークのタワーに突撃されて、3,000人以上、命を失ったでしょう。原発に、あのテロ組織が民間飛行機乗っ取ってぶつかったらニューヨークの比じゃない。厳重な安全対策。ますます費用がかかるっていうのがわかっている。

日本はそういうのしていないんですから。これから、各地区、地域に原発をつくらうとしているけどね。仮に20%程度の電源を原発で維持すると言ったら、大体30基ぐらいをつくらなきゃいけないでしょう。ここにテロ組織がぶち込んだら、日本自身が日本国民に向けた原爆を持っているようなものです。しかも、そういうテロ対策っていうのは日本は甘いからね。そういう観点からもう廃止になきゃいかん。

テロ対策としての避難計画と言っても、あの津波だけでももう逃げ惑うのに、渋滞で逃げられないでしょう。あの悲惨な事故を見たとき。避難計画立てたって、道路は渋滞しちゃうだろう。テロ対策として避難計画を作ろうたって、そんなつくれませんよ。これはだめだなど。

自然エネルギーに恵まれている日本

日本は自然エネルギーに恵まれているから、太陽にしても、風力にしても。

原発の推進論者は「太陽?日が陰ったらだめ」「風力?風がやんだらだめ」「みんな当てにならないんで、電力にはだめですよ」「原発は30%供給していたんですよ。自然エネルギーなんて2%程度じゃないですか」と言っていたんです。

ところが、2015年、今から3年前の3月で、既に太陽光発電だけで原発10基分ぐらいの電力を供給するようになった。これをさらに奨励すれば、30%の今まで原発で賄っていた電力は、私は30年を待たずに30%程度の電力は10年ぐらいで、太陽光、風力、水力で国民に供給できると思いますね。

現に、あの事故のあった2011年3月まで、54基あった原発が40基ぐらい動いていた。ところが、2011年3月から2013年6月、2年半、原発が動いていたのはたった2基。2013年9月から2015年9月の丸2年間、原発ゼロ。

その間、北海道から鹿児島まで一日も停電しないんだよ。原発なしで、原発ゼロで電気余っちゃった。そういう事実がある。原発ゼロやっけていける証明をしちゃったんだよ、日本は。

なぜ原発やめようとししないのか。これは不思議でしょうがないですね。

事故が起きれば故郷はなくなる

私はオンカロ視察に行きましたけどね。オンカロみたいな、岩盤の400メートル地下掘って。で、2キロ四方の広場に埋め込むのはたった2基分しかないって言ったけども。

これも、原発ゼロにしようっていったって、今までの原発会社のごみ、核の廃棄物、ウラン燃料を燃やした核の廃棄物が出る。これを中間貯蔵施設つくるだけ

でも大変ですよ。千年万年、放射能が漏れないような頑丈な貯蔵施設をつくらなきゃならない。

廃炉にするにしても40年かかるって言っている。ところが、イギリスの専門家に言わせると、イギリスは、原発、廃炉にするのにも90年から100年かかるって言っていますね。しかも、事故起こしてない原発。事故を起こした原発が、廃炉に40年じゃ、とてもできない話だと考えられます。

もしも40年後にふるさとに帰ることができたとしても、これも無理でしょうね。40歳の人は80歳になっていますよ。もう、帰るときないですよ。20歳の人だって、外に出て40年働いていれば、もう外で仕事しちゃいますよ。だから、原発事故を起こしたら、ふるさとがなくなっちゃうってことです。

日本の原発は絶対安全と 言われ続けていた

3基目の福島原発が爆発して放射能拡散した。あと1基、4基目は幸いにしてとどまった。民主党政権は最悪の状況を、4基目、メルトダウンで放射能を拡散したらどうなるかっていう状況を考えていたらしいんですよ。

その専門家に聞いてみると、もし4基目が爆発して放射能を拡散していたら、福島から半径250キロ圏内の住民、国民は全部避難しなきゃならなかった。あの福島の原発から250キロ圏内という、東京も入っちゃうんです。どのぐらいの国民かという、福島から半径250キロ圏内の国民5,000万人いる。5,000万人、どこに避難するのか。だから、原発っていうのは、もし事故を起こしたら、日本の国土がなくなっちゃう、日本国土は住めないようになってしまうんだ。

事故は絶対起きないって言っていたんですよ。1979年スリーマイル、1986年チェルノブイリ、あの事故が起きて、「日本の原発、大丈夫か?」ってあったんだけど。「いや、日本は広島・長崎、原爆落とされて放射能に敏感ですって。もう、十分な安全対策とってます」って専門家が言っていたんだ。「日本の原発はスリーマイル、チェルノブイリと違います。仮に、爆発起きてメルトダウン、放射能拡散されても、あの原子炉を覆う多重防護体制を敷いています。だから、絶対安全です」って言っていたんだよ。爆発しても、それを何十にも防護する、漏れないような防護体制、これが多重防護体制ですって言っていたんだよ。それでもだめだった。だから、これはもう原発、だめだなど。

電力会社は「安全」を 置き去りにして「収益第一」

まだ十分じゃないと言われたにもかかわらず「もう十分」「安全対策をしました」「これ以上安全対策は必要ない」「そんなことをしたら採算とれません」って言って、東電は拒否した。だから、もし不十分だというあの対策を「もうちょっとやっていたら、あのような福島の悲惨な事故は起こらなかった、漏れなかったんじゃないか」って言う人もいますけど、もう後の祭りですよ。安全第一じゃなかったんですよ。安全不十分。結局、経営第一、収益第一。もう、原発はコストが安くないことはわかってきた。原発ほどかかる産業ないというのがわかってきた。こういう状況なら、自然エネルギーを拡大していくのが一番いい。

そうすれば、資源小国だった日本、太陽、水力、地熱、たくさん、無限にありますよ。このほうが、原発に頼るよりもはるかに自然のエネルギーに頼ったほうが、自然のエネルギーを活用したほうが、よりよい安全な国になるんじゃないかと確信を持ちましたね。

私は、総理のとき、小泉総理はふれないなって言われたんだけどね。今、原発ゼロを言い出したら、ふれたじゃないかって、原発推進論者から批判されているんだよ。でも、いいほうにふれるのはいいじゃないかと。変わるの。考えが変わったんだ。ねえ。(拍手)それで、日本というのは自然エネルギーが無限とていいほどあるなど。使っていないだけだと。活用してないだけだと。そういうことがわかってきたものだから、こういう講演をしているんです。

オイルショックで石油依存から脱却

まず、日本はピンチをチャンスに変えてきました。

戦後の一番のピンチっていうのは石油ショックでしたよ。西暦1973年、昭和48年、私、初めて当選したのが昭和47年の選挙ですから、翌年ですよ。狂乱物価という言葉、今50歳以上の人は覚えていると思いますよ。トイレトーパーがない、洗剤がない、政府は何しているんだと。いろいろな陳情を受けましたよ。で、あのピンチ、確かに狂乱物価という名前が出るくらいだから、一時、物価上昇率20%だった。もう、インフレが当たり前だと思っていた。将来、デフレなんて来ないなと思ったら、今、デフレ。今は何とか2%にしようと思って、上がらないんですよ。

当時、日本は全エネルギー、日本国民の使うエネルギー、油に頼っていた。1バレル2ドル前後だったから、代替エネルギーなんか、そんな高い投資をする必要はない。金さえ出せば、油、ふんだんに買えると言って、安い油を買っていた。オイルショック当時、日本の電源の70%以上を油に頼った。だから、ああいうことが起こった。それで、徐々に徐々に、これは油の依存度を減らさないとまた起こるぞとて、原発を油に代えて。

5年ほど前、1バレル当たり150ドルの値をつけたけども、ほとんど混乱は起こらなかった。それは油に頼っていた依存度を70%から40%台に下げた。30%に下げたのは原発のおかげだった。だから、混乱は起こらなかった。

アメリカは「そんなに油が高いんだったら、シェールガス採掘するぞ」と。今、産油国は油を持っているんだけど上げられなくなったの。高くしたら、ほかのエネルギーが開発されちゃう。そこで、今は、150ドルあった、一番高かった油が、最近70ドル前後になったでしょう。一時はほかのエネルギーで50ドルを切った、30ドル前後になると思った。それでも、やっぱり油が使いやすいっていうんで、今、最近、50ドルから70ドルぐらいに落ちていますよ、150ドルから。産油国も。これ以上上げるとほかのエネルギーにかえられちゃうから。

世界の動き 自然エネルギーにシフト

そういう状況になって、これからは原発にも依存できなくなった。まさに自然エネルギーをどうやって活用しなきゃいけないかという時代に入ってきたんだ。そういう世界のいろいろな動きを日本は無視できないんですけども、さまざまな変化を見つめてその変化にどう対応していくかというのは日本国民の宿命だと思うんです。油に依存できない、原発に代えてきたと。原発にも依存できないから、結局、これからは自然エネルギーを活用する、これは原発に頼るよりはるかにいい。そういう時代になると私は受け止めて、別にそんなに悲観はしていないんですよ。

日本は事故前、2%程度しか、自然エネルギーに頼っていなかった、依存していなかったのに、既に15%、自然エネルギーでやっけていける。

だから、原発の30%分の電力というのは、私は30年かからないと思いますね。あと10年ぐらいうれば、自然エネルギーに切りかえようと政府が音頭をとれば、原発の30%ぐらいは自然エネルギーで分量はやっけていける、私はそういう時代にきたと思うんです。そうなれば、日本はもう自然エネルギーいっぱいありますから、資源小国が資源大国になりますよ。地球を破壊するようなエネルギーを使う必要はない。そういう、ピンチをチャンスに与えてくれたあの事故だったなど考えるべきじゃないかと思っているんです。

オイルショックがあったから、日本は環境先進国になったんですよ。あれがなかったら、依然として安い油に頼っていたかもしれない。しかし、4倍、5倍に上がってくる、油から脱却しなきゃいかんということ、さまざまな省エネ技術が発達してきた。外国の車は1リットルで数キロしか走らないのに、日本は、省エネ技術によって、同じ1リットルでも外国の車よりも倍も走る。さまざまな省エネ技術とか大気汚染、CO₂を出さない技術も進歩してきた。

だから、これからは、原発に頼らないで、自然エネルギーをいかに活用するか、そういう時代になりますよ。

ご静聴ありがとうございました。(拍手)

「原発ゼロ」を求めるリーフレット等を3面に紹介。是非ご活用を。